

坂の上通信

令和四年一月二十八日
広島市立美鈴が丘高等学校
新聞文化部(四〇三演習室)

修学旅行 今年も中止

コロナ感染爆発の影響

2月16日(水)〜18日(金)で予定されていた2学年の修学旅行が、コロナの感染拡大のため中止となった。修学旅行の中止は、2年連続となる。

中止の決定は、2月20日(木)のSHRで生徒に放送で伝えられ、同時に保護者向け文書も配付された。中止の理由として、昨今の急速な感染拡大で状況が変化したということ、クラス別研修や進路別研修を取り入れた「学びの場」としての修学旅行を実施するのが難しい、ということが挙げられている。

何らかの形で代替行事を有無を含め検討するところだが、詳細は不明だ。なお修学旅行が予定されていた三日間は、通常通りの授業が行われる見通し。

本誌136号において、二泊三日への日程短縮、また東京から岡山方面への目的地変更を報じたが、今回は中止の判断。現3年生に引き続き、修学旅行は2年連続で実施されないことになる。

市総文当口へ中止

山方面への目的地変更を報じたが、今回は中止の判断。現3年生に引き続き、修学旅行は2年連続で実施されないことになる。

生徒からは「なくなっただけで悲しいが、コロナの状況を考えれば仕方ない」と「(K)」「(M)などの声が上がった。

感染拡大の影響は他にも表れている。1月6日(木)から開催予定だった第34回広島市立高等学校総合文化祭(市総文)は、発表当日になって急ぎや中止の決定が下された。

展示担当の鈴木先生は「感染対策を十分に考えている。早くから計画を立てていました。多くの生徒が準備し、当日の朝に重いパネルを組み立て設置を終えた直後、中止を聞かされた。多くの人が見てもらえる場がなくなり、申し訳ない気持ちでいっぱいです」と悔しさをにじませた。

ステージ担当の宮田先生は「12月頃にはコロナも落ち着いており、開催できるかと思っただけですが、残念です。中止は会場で照明の準備をしている途中に知らされました。やむを得ないとは言え、涙を流す生徒もおり、心が痛みました」と複雑な表情を浮かべた。

学校の「顔」にインタビュー



今回は、保健体育科で1年3組担任の奥山先生にインタビューを行った。

「なぜ先生になったのですか。幼い頃、親の仕事で

インドにいました。その頃の話や健康、貧富の差や健康について考えるようになり、その影響で先生になろうと考えはじめました。

「好きなスポーツは?」

「サッカー。大学まで続けてきて、色々な人との出会いや、友人に恵まれたからです。」

「休日の過ごし方は?」

「家族3人で美味しいものを食べにいったりしています。」

「美高生に一言。」

「楽しいことは待ってもやってきません。自分から見つけましょう。」

女子制服 来年からスラックスも

これまで女子の制服はスカートのみだったが、今春よりスラックスも選択可能になる。

ジェンダーの観点や防寒の観点から女子制服のスラックス導入は全国的な流れとなっているが、美高もそれに加わり選択肢を広げることになった。今回の判断に至った経緯を、生徒会部の山口先生に伺った。

多くの高校で採用

「発端は、生徒会が設置している目安箱です。女子のスラックスの導入を望む投稿があり、生徒会で話題となりました。学校としても、女子の寒さ対策やLGBTへの配慮という観点から検討の必要がある」と判断しました。あくまでも欲しい人が買う選択制で、今まで通りスカートも着用できる。

(株)CCCマーケティングが21年9月に実施した学校総選挙プロジェクトによると、制服が指定されている高校のうち、女子でスラックスを選ぶことができる高校は、全国で1365校あり、全高

校の44.4%を占める。トランスジェンダーの生徒が実質的なカミングアウトになることを避けるため、異装履や理由の提出が必要な学校、男子生徒の制服を着用することになる学校はここには含まれていない。都道府県別では長野県87.8%、滋賀県が86.4%、など高い採用率を示す一方で、青森県、愛媛県、岩手県などは10%を下



女子制服のスラックス見本

生徒の反応は

今回の決定について生徒会長の中井さんは「スラックス導入については以前から希望の声があったので、実現できて嬉しい。ただ費用もかかるし、人数も初めは多くないだろうから、履きづらいかもしれない。寒いからスラックスを選択するという考えもあるが、スカートの下にジャージを履くことを許可してほしいという意見も多い」と話した。

これに対し生活指導関係者は「寒ければスラックスを着用し、その下にタイツを履くなどして対応してほしいですね。正しく着こなしてこそその制服です。きまりを遵守する意識と、きまりの中で対応する力を身につけてください」と冷静に反応した。

「制服選択の幅が広がったことにより、女子もスラックスを履けるようになった。ジェンダーの観点からも、当然の流れだ。▼では、男子でスカートを履きたいという声が上がった場合はどうだろう。違和感を感じるという人はまだ多いのではないかと。美高でスカート男子が登場した場合、先生に指導されるかどうかはさておき、すれ違う多くの生徒が二度見するような気がする。▼NHKは以前「僕がスカートを履く理由」という特集で週に1、2回スカートで登校する男子高校生を取り上げたが、これが番組として成立すること自体、まだ男子のスカートが耳目を集める証拠だとも言える。▼スコットランドには、キルトと言うスカート状の男性用の民族衣装がある。とすれば、スカートへの違和感や機能的なものではなく、私たちが社会で身につけた意識によるものとは言えないだろうか。もちろん違和感を感じるのも自由である。ただその気持ちの正体は何か、この機に考えてみたいテーマである。(森勇樹)

新聞部 年間紙面審査賞で入賞 東京総文へ参加

12月19日(日)、広島県立総合体育館で第18回広島県高等学校新聞交流会が開催された。美高のほか、崇徳高校、呉三津田高校合わせて60名以上の新聞部員が参加し、交流を深めた。

閉会式では第6回広島県高等学校新聞コンクールの結果発表も行われ、美高新聞部が最優秀賞を獲得。さらに第26回全国高校新聞年間紙面審査賞において入賞校にも選出された。

その後の質疑応答の場では次々に手が挙がり「どの様な時にやりがいを感じるか」「テレビ報道ならではの報道の価値は何か」などの質問が出された。

今年の入賞校は全国143校の中から45校が選ばれ、広島県では美高と崇徳高校が受賞。美高新聞部は昨年奨励賞を受賞したが、大きく躍進した形だ。

県コンクール最優秀賞校として2名、年間紙面審査賞入賞校として2名、合計4名の新聞部員が、今年8月に東京で行われる全国総文に参加する。現在新聞部は2年生しかないな



表彰される新聞部部长

美・鈴・鈴・鈴

制服選択の幅が広がったことにより、女子もスラックスを履けるようになった。ジェンダーの観点からも、当然の流れだ。▼では、男子でスカートを履きたいという声が上がった場合はどうだろう。違和感を感じるという人はまだ多いのではないかと。美高でスカート男子が登場した場合、先生に指導されるかどうかはさておき、すれ違う多くの生徒が二度見するような気がする。▼NHKは以前「僕がスカートを履く理由」という特集で週に1、2回スカートで登校する男子高校生を取り上げたが、これが番組として成立すること自体、まだ男子のスカートが耳目を集める証拠だとも言える。▼スコットランドには、キルトと言うスカート状の男性用の民族衣装がある。とすれば、スカートへの違和感や機能的なものではなく、私たちが社会で身につけた意識によるものとは言えないだろうか。もちろん違和感を感じるのも自由である。ただその気持ちの正体は何か、この機に考えてみたいテーマである。(森勇樹)

編集後記

コロナが早く終息することを願います。